歴史学研究会　総合部会　　2023 年 12 月 21 日

「パブリック・ヒストリーの実験と実践―立石の物語を聴く、読む、紡ぐ」

歴史を語ることは、何を生むのでしょうか。
歴史を語ることで、何が変わるのでしょうか。

本企画は、パブリックヒストリーを学び、実験し、実践する試みです。

具体的には、東京都葛飾区立石周辺地域の歴史に焦点を当て、地域社会に息づくさまざまな「語り」に耳を傾け、それらを撚り合わせることで、関係するさまざまな人びとととともに新しい歴史の「語り」を紡いでみたいと念じます。

アジア太平洋戦争後、立石は中心市街地に形成された闇市を出発点として復興を遂げました。高度経済成長期には京成立石駅周辺の商店街が発展し、他地域からの人口流入とともに、立石は東京東部の「下町」として成長しました。しかし、立石はいま急激な変化に直面しています。駅周辺の市街地再開発事業が進められるなかで、2023 年 9 月、北口再開発地区の住民・商店主は立ち退きを余儀なくされ、街区全体が白いフェンスで覆われました。

長い時間をかけて築かれた街並みが消失するなかで、その街並みに根ざした歴史も忘却の淵に沈もうとしています。これに対して、本企画は移り変わっていく街の歴史を多角的な視点から「再発見」し、地域社会をめぐる新しい歴史の「語り」を築き上げることを試みます。参加者は実際に地域を歩き、複数回の現地調査をもとに対話と討議を重ね、報告会を通じてこれらの成果を広く共有します。本企画は、歴史研究者や地域住民をはじめとする多様な人々の協働を通じて、地域の歴史をあらためて考え、地域の未来を問い直していきます。

本企画は、新しい歴史の「語り」を構築するために、三つの視点からアプローチします。本企画はまず、従来の地域史における支配的な物語から逸脱し、「大文字」の歴史叙述からこぼれ落ちてしまうような、人々の生きた経験が織りなす小さな物語に注目します（**「小文字」の歴史**）。また、地域社会の周縁を生きたさまざまな集団の記録を掘り起こすことで、こうした周縁の視座から地域の歴史を描き直していきます（**周縁の視座**）。そして、地域の過去について調査することで、翻って街の現在の様相を問い直し、さらに地域社会の未来を展望するような歴史叙述の可能性を追究します（**未来に開かれた歴史**）。本企画はこれらの視点から出発して、地域社会の過去・現在・未来をつなぐ「語り」を紡ぐことで、歴史実践の新たな可能性を模索していきます。

キーワード：歴史実践、パブリックヒストリー、歴史学のフィールドリサーチ

主催：歴史学研究会
共催：みんなの立石物語プロジェクト